

VII 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2017

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2017年2月12日(日) 10:00～16:30
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B
- ◆ 参加者数：一般参加者 125名、受講者 38名、JICA6名、NIED 7名、合計 176名
(一般参加者内訳：教員 91名、学生 8名、JICA・NPO関係者 10名、その他 16名)
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏、研修受講者

■ 開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム 2017 のねらい

- ①【受講者】 実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】 実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】 開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

■ プログラムの内容

● セッション1 「導入と実践報告ポスターセッション」 10:00-12:30

1. あいさつ・概要説明など 10:00-[22]

- ◇ 主催者 (JICA 中部所長 阪倉) が主催者挨拶を行った。
- ◇ 開発教育指導者研修 (実践編) および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントで JICA 中部倉坪職員が説明した。
- ◇ 実践報告フォーラム 2017 のねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。



2. 41人ポスターセッション (実践報告) 10:22-[128]

- ◇ ポスターセッション (実践報告) を行うにあたり、参加者は配付資料「実践報告シート集」リストのうち、興味のある実践 8例 (シート No.の奇数・偶数番号より各 4例ずつ) をピックアップした。
- ◇ 奇数番号を前半、偶数番号を後半に分け、拡大した実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッションを行った。14分間を一つの区切りとし、1人4セッションの報告と質疑応答を行った。なお、当日欠席となった3人の受講者分は、掲示のみとした。



- ◇ ポスターセッション終了後、午後のプログラム、4つのワークショップのテーマと会場、昼食について説明した。

- 休憩 - 12:30-[60]

● セッション2 「実践教材体験ワークショップ」 13:30-15:05

1. 実践教材体験ワークショップ 13:30-[90]

◇ 4つの会場に分かれて、以下の4チームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- 分科会1 (多様性) … 「同じと違いから考える人権」 (教師海外研修エチオピアチーム)
- 分科会2 (貧困) … 「貧困のないよりよい未来へ」 (指導者研修実践編受講者チーム)
- 分科会3 (開発支援・国際協力) … 「誰だって世界と関われる！」 (教師海外研修パラグアイチーム)
- 分科会4 (多文化共生) … 「多様性の中で共に生きよう」 (指導者研修実践編受講者チーム)



◇ 移動 10分

● セッション3 「海外研修報告」 15:15-16:05

1. 教師海外研修報告 (パラグアイ) 15:15-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① パラグアイの場所等、基本情報を紹介
- ② 現地訪問先の様子やホームステイ体験をクイズ形式で紹介した後、問題ごとに解説
- ③ 現地研修で一番印象に残っている写真を、エピソードと共に1人ずつ紹介



2. 教師海外研修報告 (エチオピア) 15:40-[25]

◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。

- ① エチオピアの特徴的な挨拶と基本情報を紹介
- ② 現地研修での日々の振り返りワークショップを再現する形で、研修内容を報告
- ③ 印象に残っている出来事を写真と共に紹介



● セッション4 「ふりかえり・閉会」 16:05-16:30

1. ふりかえり・閉会 16:05-[25]

- ◇ 実践報告フォーラム 2017 のふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 一般参加者、受講者それぞれ3~4名から、本日の実践報告フォーラム 2017 の感想を全体へ発表した。
- ◇ 受講者を代表して山田真沙美さんが、閉会のあいさつを行った。

※ 閉会后 30 分間、参加者と受講者が自由に歓談、交流を行った。



■ 実践教材体験ワークショップの内容

●分科会 1 の記録 (A1会場)

テーマ	多様性 (エチオピアチーム)	タイトル	同じと違いから考える人権
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の大切さを理解する(多様性受容力を高める) ・エチオピアを通して、人権について理解する。 		
参加者	32人 (内訳:参加者23人、提供者7人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:35	1 アイスブレイキング ◇グループを作り「所属」「何をしている人か」「千切りキャベツに何をかけるか」で自己紹介(a) ◇ファシリテーターメッセージ「私たちの周りは違うことがいっぱい＝多様性」	(a)ソース派が少なく、笑いが起こる。何もかけない、ドレッシング、塩など様々な声。	
13:40	2 写真を使ってエチオピアクイズ(a) ◇エチオピアにまつわる情報(国基本情報・食べ物(インジェラの味)・有名な日本語・小学校就学率・小学校卒業率)をクイズ形式で提供。グループで話し合い、答える。	(a)正解が発表されるたびに拍手、笑い声も。非常にテンポよく進み、相談したり、うなずいたり引き込まれている様子が伺える。	
13:45	3 もし多様性がなかったら【派生図】(a) ◇「もしも、皆、自分と同じだったら」というお題で派生図を描き、プラスに働くと思う意見とマイナスに働くと思う意見を異なる色のマーカーで囲む(b)	(a)「なるほど」「こうなるかも」といったつぶやき、時折笑い声。活発に図に意見を書き込んでいる。 (b)多様性は必要という気付きが生まれた	
13:55	4 エチオピアと日本の違うところ ◇エチオピアの写真(学校、スーパー、街、食事)エチオピアと基礎統計表(民族、宗教、面積、人口構成、平均寿命、教育など)を見て、日本と違うな、と思うところをできるだけたくさん書き出し、あってよい違い、よくない違いに分けて対比表を作り、気づいたことを発表する。(a) ◇ファシリテーターメッセージ「あってよくない違い＝人権が守られていない」 ◇世界人権宣言を読み、感想を共有する。	(a)「どうしても日本と比べる。それが本当によくないことなのか。ダメな違いかそうではないか、もっと考えてみるという。」「単一民族の日本人、違いに対して鈍感だったなと気づいた。」「仕事をしているは、悪いことなのかどうか、疑問に思うようになった。」	
14:42	6 行動計画づくり ◇人権を守るために自分たちができることは何か、付箋にできるだけたくさん書き出し、お互いに見せ合う。 ◇付箋の中から1枚を選んでA4用紙に貼り、「自分は人権を守るために～していくぞ」という宣言を書き、グループ内で発表する。(a)	(a)紙を相手に見せる人、見せずに宣言だけ行う人、詳しく説明する人、様々な様子で宣言を行った。	
14:55	7 ワークショップの感想を共有(a) ◇ファシリテーターメッセージ「多様性があるからこそ面白い。とはいえ人権が守られていない多様性は問題である。」	(a)「班の人達が温かかった。ぜひ自分の中学校でもやっていきたい。」「エチオピアについて知ることができてよかった。協力して活動し交流を深めることができてよかった。」	

●分科会 2 の記録 (A2 会場)

テーマ	人権・貧困 (実践編チーム1)	タイトル	貧困のないよりよい未来へ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対的貧困について知る。 ・より良い未来のためにできることを考える。 ・貧困の連鎖について理解する。 		
参加者	41人(内訳:参加者32人、提供者7人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 チーム分け(1グループ4,5人) ◇同じ絵のカードの人同士同じグループになる。	知らない人同士が同じグループになることもあって、少し緊張した様子。	
13:34	2 アイスブレイキング ◇A4用紙に名刺を作る(1.呼ばれたい名前、2.どこから来たか、3.100円で買えるオススメ商品、4.最近うれしかったこと)(a) ◇グループごとに名刺で書いたことを自己紹介する。(b)	(a)「100円で買えるものは？」に対して「消費税は？」という質問があり、笑いが起こって場が和む。 (b)うなずいたり反応したりしながら聞く人が多く、自己紹介し終わった人に対して拍手が起こる。	
13:45	3 貧困を自分事にとらえよう(シミュレーション) ◇前提(①家はある、中身はない。②着ている服は今日の服のみ。③働く場所はあるけど仕事はない。④明日から7日間。⑤日本で暮らすとしたら。)を挙げ、1日100円、1週間700円で生活するとどのような生活になるかグループで考え、模造紙に書き出す。(a) ◇他のグループの模造紙を見て感じたことなど自由に話す。全体で共有する。(b)「この生活が1年続くとどうなるでしょうか？電気代、保険、教育費は・・・？」	(a)質問がでる。「家にいる人は誰ですか？」「1人です。」どのグループも、それぞれの意見を出し合い、議論して優先順位の高い物から書いている。食品(パン)を最初に挙げているグループが多い。「水は公園で汲む」、「昼間は図書館で過ごす」「コンビニ店員と仲良くなって働かせてもらう」など買うこと以外の案も出ている。 (b)「常に値段設定があるのでとてもプレッシャーを感じる。ストレスフルな状況。」「本当に必要な物は何だろう？と考えるきっかけになった。」	
14:03	4 貧困の輪 ◇貧困カードを円状に並べる。(a) ◇どのように並べたか、全体で共有する。 ◇絶対的貧困についての資料を配付、ファシリテーターから解説。	(a)貧困がどんなことにつながっていくのか相談しながら、貧困カードを並べている。	
14:11	5 バングラデシュを救う9つの方法 ◇バングラデシュを救うために、「最も効果がある支援」と「最も効果が薄い支援」を選ぶ。(個人→グループ)(a) ◇支援のランキングに順位はないが、段階がある。	(a)自分の考えを、理由と共に熱心に伝えている。選んだものはそれぞれ違うが、うなずきながら聞いている。意見がなかなか一つにまとまらないグループもあった。	
14:30	6 行動計画を立てよう！ ◇貧困を解決するためにできることを、自分、みんな、機関や組織に関わることの視点で考え模造紙にまとめる。 ◇全体で共有する。	大きなテーマだったが、自分の考えを出し合い、行動計画をまとめている。 参加者からの意見…「現状を知る」「関心をもつ」「授業を通して伝える」「組織を立ち上げる」「話し合う」「その国の製品を買う」	
14:55	7 支援活動を知ろう！ ◇現在行われている支援活動が書かれた資料を配付		

●分科会 3 の記録 (B1 会場)

テーマ	開発支援・国際協力 (パラグアイチーム)	タイトル	誰だって世界と関われる！
ねらい	・パラグアイの現状や課題を知り、自分たちが地球市民としてできることがあることに気づく。		
参加者	39 人(内訳:参加者 29 人、提供者 8 人、スタッフ 2 人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	1 アイスブレイキング ◇グループを作り、参加者同士「気づいたらウチだけ？！ ちょっと変わった我が家のルール」で自己紹介。	意外でおもしろいルールが各家庭にあり、和気あいあいとした雰囲気スタートした。	
13:42	2 パラグアイに関するクイズ ◇パラグアイにまつわる情報(テレレ・魚 or 肉好き・ゴマ・在 パ日本人数・友情の日)を○×クイズ形式で提供。答え をグループで相談し○×をジェスチャーで上げる。	楽しく考えながら、パラグアイへの関心が高まった。	
13:49	3 パラグアイと日本の良さを見つけよう ◇パラグアイ情報資料(学校・食事・伝統・国民性)を配 付。パラグアイと日本、それぞれの国の良さを見つけ、模 造紙に対比させて書き出す。 ◇ファシリテーターメッセージ「自己紹介をふりかえり、隣同 士でも違いがあるということは、世界はもっと違いがあり、 多民族であり多文化である」	二国の良さを書き出すことで、違いと共通点を発見した。	
14:00	4 一緒に暮らすとなったらどうする？ ◇違う文化・違う民族同士が同じコミュニティで暮らすとなつた 場合、大切なことは何かをグループで考え、全体へ発表。	大切なこと「挨拶」「笑顔」「話し合う」「対等なコミュニケーション」「お互いを思いやる」	
14:10	5 ミゲル家を救え！ ◇ミゲル家の状況資料を配付。現在の状況が変わり (a)、ミゲル家の将来はどうなるかを派生的に考える。 ◇ミゲル家の現状を解決するための手立てを国際協力の 支援者になったつもりで考え、模造紙に書き足す。 ◇全体共有。「いいな」と思った手立てに☆マークを付ける。 ◇パラグアイ現地研修訪問先「白沢商工株式会社」白沢 社長の貧困解決への取り組みであるにゴマ生産を紹介。	(a)ミゲル家／父、母、子供(小5・女、小2・男) パラグアイの小規模農家。20ha の土地を持っており、綿 花を育てている。農機は持っていないが、牛車を持って いる。子供は小学校に通っている。→ある日突然、綿 花の価格が急落し、生活が成り立たなくなった。 他のグループの意見から新たな発見、気づきを得た。	
14:35	6 わたしたちにできる国際協力とは ◇協力隊活動資料を 1 人につき 1 枚配付。(a)グループ内 でその人になりきって自己紹介し、感想をグループで共有。 ◇ファシリテーターメッセージ「国際協力もこのワークショップ のテーマであること、そして、自分の得意なことや好きな ことを活かして一人でもできる国際協力がある」 ◇今日のフォーラムを通して、これから自分がしていきたい ことを考え、グループ内で 30 秒宣言を行う。	(a)協力隊・専門家資料…スポーツ・看護師・教師・ゴ マ専門家 一人一人の宣言に聞き入り、拍手で称え合った。	

●分科会 4 の記録 (B2会場)

テーマ	多文化共生 (実践編チーム2)	タイトル	多様さの中で共に生きよう
ねらい	・なぜ、多様性を受け入れる必要があるかに気づき、自分にできることを考えよう。		
参加者	40人(内訳:参加者31人、提供者7人、スタッフ2人)		
時間	プログラム	参加者の反応	
13:30	<p>1 世界は多様だ</p> <p>◇あいさつカードを配付し、カードの指示に従い5人の人とあいさつをする(a)→同じ指示のカードを持っている人でグループになる(b)</p> <p>◇世界のいろいろなあいさつを紹介</p> <p>◇グループ分け&自己紹介</p>	<p>(a)さまざまなジェスチャーでのあいさつをして盛り上がった。</p> <p>(b)参加者からの意見「一人だけだったので、スターになったような気分(笑)でも、同じジェスチャーの人と出会えなくて、寂しかった。」「多くの人と同じで安心感があつた。」</p>	
13:47	<p>2 自分の価値観に気づこう</p> <p>◇10人の外国人について書かれた資料を配付、「隣人になりたい人」と「隣人にはしたくない人」をそれぞれ一人ずつ選び、グループで発表する。(a)</p> <p>◇もしも自分が家族であまり知らない国に行くことになったら、「楽しみなこと」と「困ること」を付箋紙に書き出し、KJ法で分類する→気づいたことを発表(b)</p>	<p>(a)選んだ人は違っても、理由を聞いて共感や納得したりして意見交換をしていた。</p> <p>(b)参加者からの意見「困ることは、生活に深く関わるが多かった」</p>	
14:25	<p>3 もしも違いを受け入れられなかったら</p> <p>◇もしも私たちが違いを受け入れられなかったらどうなるか、派生図で考える。</p> <p>◇自分とは違う立場や視点(高齢者、子ども、人種など)からも考える。(a)</p> <p>◇模造紙を回して全体共有。自分のグループでは出なくて、いいなと思った意見に☆マークをつける。(b)</p>	<p>(a)活発に意見交換しながら、多くの意見を書き出していた。</p> <p>(b)多様な意見に触れ、視点が広がった。たくさんの☆マークがつけられ、盛り上がった。</p>	
14:40	<p>4 多様な人が気持ちよく暮らすために</p> <p>◇違いを受け入れ、困ることを解決するためのアイデアをブレインストーミングで書き出し、全体で共有(a)</p> <p>◇「多様な人が気持ちよく暮らすために自分にできること、心がけておきたいこと」(宣言)を書き出す。</p> <p>◇それぞれの宣言を持って記念撮影をした。(b)</p>	<p>(a)他のグループのアイデアに「あ〜」「いいねえ」などと声が上がった。次のようなアイデアが出た。「アサーティブな自己主張をする」「違いよりも共通点をさがす」「言語を学ぶ」「一緒にスポーツをする」など</p> <p>(b)それぞれの宣言を叫びながら笑顔で記念撮影した。</p>	
13:30	<p>5 世界は多様だ</p> <p>◇あいさつカードを配付し、カードの指示に従い5人の人とあいさつをする(a)→同じ指示のカードを持っている人でグループになる(b)</p> <p>◇世界のいろいろなあいさつを紹介</p> <p>◇グループ分け&自己紹介</p>	<p>(a)さまざまなジェスチャーでのあいさつをして盛り上がった。</p> <p>(b)参加者からは次のような意見が出た。「一人だけだったので、スターになったような気分(笑)でも、同じジェスチャーの人と出会えなくて、寂しかった。」「多くの人と同じで安心感があつた。」</p>	

●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。()内は記入者の属性

「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- 同じ考え、志を持つ先生(仲間)に出会えた。(教員)
- 自分と同じ教師海外研修に興味のある人と出会えた。(教員)
- 色んな考え方・立場の人と出会えた。(学生)
- 身近な人にも世界を知って何か行動したいと思う人がたくさんいると感じた。(教員)
- 実際に学校で使えること、教えてもらいたい先生を発見できた。(教員)
- いろいろな学校でいろいろな試みがされていることにびっくりした。(学生)
- 先生が笑顔。(その他)
- 先生方の熱気に圧倒された。(教員)
- 20代、30代の先生方が、いきいきと活動・発表していた。(教員)
- 発表者が楽しそうに事例を伝えてくれたこと。元気をもらった。行動することが大事!!(教員)
- 開発教育・国際理解教育の実践方法を学べた。(学生)
- 授業の工夫を知ることができた。(教員)
- プレゼン、ワークショップの進め方。(学生)
- 発表の完成度が高い。生徒の成長が見える取り組みだった。(NPO)
- 参加型の授業が持つ興味や関心を触発する効用がよく理解できた。(NPO)
- 授業を通じ子ども達の考えが変化しており、教育の大切さが分かった。(NPO)
- 実際に本物を見て、聞いて、触れることの大切さを強く感じた。(教員)
- 支援のいろいろな視点について広げることができた。(教員)
- 教師海外研修訪問国と日本の接点を知ることができた。(教員)
- 新しい世界、自分の知らない世界を知ることができた。(教員)
- 海外への興味がもっと出てきた。(教員)
- 国際協力、私にもできるかも!と身近に感じる事ができた。(教員)
- 私たちができることは(世界のために)様々あって、いろいろな方法が考えられると思った。(教員)
- 全然知識がないまま参加したが、身近に考える機会になった。(学生)
- 次世代の子ども達に、もっと理解が広まり、平和な世界になって欲しいと思った。(教員)
- 自分が子どもに少しでも伝えれば良いと分かった。(教員)
- 単に情報を得るだけでなく、人の気持ちや考えを知ることが大切だと思った。(NPO)
- ワークショップの終わりに「国際問題」について井戸端会議的にもっと普通に話せるような社会を作れば良いなという意見があった。そんな未来になればステキだと感じた。(NPO)
- もっと情報を共有していきたい。(教員)

「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 仲間と再会!仲間がここにいる!(教員)
- また新しいファシリテーターの仲間が増えた!(教員)
- 人の「わ」の広がり。つながりを感じさせる大切さ。(教員)
- 昨年の研修よりもさらに知らなかったことに出会えた。(教員)
- 同僚が参加してくれた→次につながりそうな予感。(教員)
- 開発教育・国際理解教育は実践者自身が楽しんで取り組んでいる人が多い。(教員)
- たくさんの学びに目を輝かせている人たちがいっぱいいた。(教員)
- 学校現場で、まだやれる!という気持ちになった。(教員)
- どの先生(発表者も参加者も)、目の前にいる子どもたちのために、世界中の子ども達のために、頑張っている!!(教員)
- 大学生が大学生対象にワークショップをした実践を聞き、とても勉強になった。(教員)
- 参加型の良さを理解して、多くの人が実践している。(NPO)
- 小さな実践(3~4時間)でも質の高いものがあつた。(教員)
- あ!これやってみたいと思う手法・教材に出会えた。(教員)
- 世界のことを参加型で考えるだけでなく、それを自分たちの身のまわりのこととしておとす実践をしていた人が多い。真似したい。(教員)
- 座学ではなく参加できるアクティビティは、能動的にする。(教員)
- 参加型の手法はやはり自分と相手のことをよく考えることができてももしろい!(教員)
- 生徒の海外研修のために準備すべきことのアイディアを得た。(教員)

「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- たくさんの同じ志の人達と出会えた。つながりが生まれた!(教員)
- 同じ所で悩んでいる仲間に出会えた。(教員)
- 参加型は多様な価値観と出会える。へーそうか、そんな考え方もあるんだ!!(NPO)
- 開発教育・国際理解教育に興味関心を持って取り組んでいる人の多さ。(教員)
- 他の人の実践を知って刺激になった。やってみるぞ!(教員)
- 一つの目的に向かってみんなが協力したり個人のワークを仕上げていく姿を見るのが嬉しかった。(教員)
- 「この授業イイネ!」って言われた。(教員)
- 実践に共感してもらえたり興味を持ってもらえたりした。(NPO)
- 実践してみて見えた課題があつた。(教員)
- 実践に対して改善案をもらった。やってみようが増えた。(教員)
- こちらの意図とは違う意見も出て、考えが深まった。(教員)
- 達成感!1年間がんばってきたよかった!(教員)
- ワークショップも成功した!楽しんでもらった!(NPO)
- 研修に参加して本当によかった。(教員)
- 行動の素となるのは個人の価値観。その価値観が変化していくことが大切だし、嬉しいことだと改めて感じた。(教員)
- 世界にばかり目を向けていたけれども、足もとをみつめ、日本での負の連鎖も解消する必要があると発見した。(教員)

「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 開発教育・国際理解教育の実践を継続して行っていく。(教員)
- 総合などの時間を使い実践してみたい。(教員)
- どの国においても安心・安全な生活が描けるために、自分のことだけでなく利他的な思いで考え、伝え、実践につなげていきたい。(NPO)
- 今後の研修に、より大きな視点、共生の視点を取り入れたい。(NPO)
- 身近な行動の変化に寄り添うようなワークショップ、ファシリテーションをしていく。(NPO)
- 参加型の手法はおもしろい。自分もやってみたい。(学生)
- ワークショップで宣言したことを実践したい。(学生)
- ワークショップなどは、これから授業をしていくうえでとても大切でいい方法だと感じたので実践していきたい。(学生)
- 身近な人に話すことがから始めようと思う。(教員)
- 今日学んだ方法論を、これからの自身の活動(法教育)にも活かしていきたい。(NPO)
- 自分が知ったことを伝えていきたい。経験して、自分の目で見たことを伝えていきたい。(教員)
- 来年は地域の人、誰かに声をかけてフォーラムに参加を誘ってみたい。(NPO)
- 実際に自分だけでなく、他の人に広げていきたい。(学生)
- 自分も講師の立場でみんなに“伝えたい”。(学生)
- よりグローバル社会、国際理解を進めて行くことの必要性を、多くの人(教員や生徒)に伝え、つなげていきたい。(教員)
- 出会うことや知ることを、学ぶことを続けていきたい。(教員)
- 生徒達に考える機会を作る。(教員)
- 子ども達が世界へ飛び立つ気持ちを持てるよう背中を押す。(教員)
- 輪を広げ、ネットワークを作り、いろんな人と価値を共有し深めていきたい。(教員)
- 開発教育・国際理解教育を、まずは自分の学校に、そして地区に広げていく。(教員)
- 今日出会った人と交流したい。(教員)
- 参加した方との学びの場を作りたい。(NPO)
- 教師海外研修参加者のネットワーク化。(その他)
- もう少し海外のことを勉強したい。(教員)
- 世界を知る→自分を知る。(教員)
- 様々な国について、もっと勉強したい。(NPO)
- 偏見を持たず、知ろうと努力したい。(NPO)
- 海外のことにも、もっと目を向けていきたい。(学生)
- 世界の人々、地域について理解を深めたい。日本についても！(教員)
- アンテナを高く、自分ができることは何か考える。(教員)
- 「肯定感」肯定することで見方が変わる。(教員)
- 世界、自分の国、自分のことをもっと理解することで、できることを探したい。(教員)
- フェアトレードや世界の物を買いたい。(教員)

「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 研修で学んだことを現場で生かしたいと改めて思った。(教員)
- 自分の学校の開発教育・国際理解教育の年間カリキュラムを、改善してより良いものにしていきたい。(教員)
- 参加型で授業作りをどんどんやっていきたい。それは生徒の力(学力)になるのかと言われても、負けずに実践する！！(教員)
- どんな形であれ、続けること。知る人、理解する人を増やす。そこで止まらず、自分も成長する。教材研究を深める。(教員)
- 大変でも、めんどくでも、参加型は未来のために必要！(教員)
- 周りの人に根気強くESD教育について話していきたい(あきらめずに…)。(教員)
- まず“知ること”を一番に、そして世界の状況と学校をつなげていけるように、周りを巻き込んで考えていきたい。(教員)
- 自分自身の人権を大切に、みんなが幸せになるための基準をもって行動したい。(教員)
- 人権について、子ども達と一緒に考えてみる。(教員)
- 異文化理解の方法について生徒と考えていきたい。(教員)
- 国民というより地球人であることを伝える。(教員)
- 多様性の大切さ。多様性があるから新しいものが生まれる、発展する。(教員)
- 人を育てることの大切さ＝教育の大切さ。(教員)
- 「情報」と「人」をつなげる。(その他)

「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 今回の実践で改善点、続けていきたい内容が見つかった。これからは周囲の先生を巻き込んで続け、広げていきたい。(教員)
- 総合的な学習の時間3年間モデルカリキュラムを作成し、開発教育・国際理解教育を広める！！(教員)
- みんなのアイデアをもらって授業を進める。(教員)
- 教えたりまとめたりするだけでなく、場づくりの進行役としてファシリテーターをする。(NPO)
- 参加型をたくさん実践していく。(NPO)
- 小学校でも積極的に取り組んで、巻き込む！！(NPO)
- これからも子ども達や周りの大人、地域の人たちにも、開発教育・国際理解教育の大切さを伝えていきたい。(教員)
- この研修で出会った仲間と始めた活動がんばる。(教員)
- 職場でこの研修に参加してくれる人にバトンを渡す！(教員)
- ここでできた仲間と共に、多様な価値観を認められる子ども達を育てたい。(教員)
- いろんなことに興味を持ち行動をおこすきっかけを作りたい。(教員)
- 人権、多様性について考えたことを行動に移したい。子ども達にも伝えていきたい。(教員)
- ここで出会った仲間、開発教育・国際理解教育を進めている人達との“輪”をつなげていきたい。広めていきたい。(教員)
- 研修で学んだことを自分の中にしっかりおとす！(教員)
- 社会の課題は自分たちの暮らしでもあることをもう一度見つめ直す。(教員)